9月14日 日本反帝戦線中央総決起集会

新たな混乱と対立の時代

の共同反基命の "ミリタリー・キーりわけ日米共同戸期に残くところ

広報隊派派四上開手は限制された

る つ、七二年自当教派美閣正にむけ の あの中核派を、 勝級的に 職物しつ 悪に 歌 た 選目和見主選に 脈落した ソ こ こ 一 既に 我 た は、 この 間、 人 民 教 課 に

によって、帝国主義者・スターリ 係機的状況を一層深めていること 渡期世界の矛盾が一挙に繁呈し、

だ。 洗礼を与えなければ なら ないの 人民に、我々の巨大な武姿闘争の

2

機能二六年打ち続いたIMF・

通貨秩序の

立と鴻乱の中で、かかる「籔学」

これまでのインフレ的不況をより 国際貿易の相対的減少を結なし、

、そ 無事力の強化は一層不可避の課題

HIME

生性)を、色の蜂組へ向げた目的

当局の反極命的風感は、だが、も

われわれば、再度隊列を整えて、

たかにみえる榴力も、だが、 数の利で、一匹は、われわれの 米追随主義的なかれらの路線は、

近機管区機動隊を含めて、

に制圧型占拠されてしまったので に制圧型占拠されてしまって完全 に対する。

※逮捕者と一名の重傷者を出した

を、 死闘として賞価したわが日本 たかいとっていった。共会は広島数雨の中、広島区態反戦災会をた

くのた「五っ年計画を通じて目論んでいるが日本」ととが確約され、朴次権が、との

後が、これを文字相り「うけと

入告・記訟・沖縄を、

で発

う伸出からの方触い発音が打

「一面難談、一面國际」に日帝が 日情が全面的に協力・提助を行う 「第三次五ヵ年」画」に対して、韓国の単化学工業化促進に向けた

霧

は三番の

対群を頼に説明され ねばな する遅いはとの二つの「蜀草」のれわれの「七二年芝達」以後に対 七二年沖縄「玄鷹」 水策を のことと、伊棚自衛院選兵阻止 汗棚等 透脳学一覧の 次遅を売ち

日米共属四期の内実

と破団を選歩に刻印するものなの

(留(参)

一体しは、同時に称る

っぱいの謎列を組んで、広島宗へ

フ 人民の立先頭において、握も非和 し 房的に貫徹したということは、 あ わし 居的に貫徹したということは、 あ われいで、 とこの 和

六日、市中デモを終へて、われ

るの であ

プロ独一世界共産主義の勝利へ 一部 産主義者同盟

8月23日 3の日発行 第274号 50円

線、駅頭を

れば、八月五、六間外を贈い扱い

6日

式典に怒り

0 渦 いるのが、 政治核心だけを「学」んで、

かわいそうなフロントーた情勢把握を指定しているという一ったのである。

「中枢だろうと努力して」

でしたとかいう誤惑に充ち 満ち さめ な心情は、「日帝による南朝鮮将 へ

に余りの過大な評価と多大な意味

ことや、「反音学評」の準備

/必要がある。

してしか映じずに、中核液の機構

が彼らのかかる小ブル的な心情のないに学ぶ」などと、握らしげに

おの党派が「広島」にも登場したとしからなくなって、ただ中核派以外・
とからなくなって、ただ中核派以外・

たる在青回解放派にいたっては、われらの「社民」=人民戦緩急

界市場における経済的損害的奇器、進行をもってこの。経済晩多。に一同時に、日管にとって、統一的世」の発行)と、企画的な売業再報の

日帝の進略・階級支配の強化を、被助法弾圧!

しとける唯一のものである。

香にかけての沖縄自 <br />
「除痰炎阻止

中核の墮落と危機の絶望的深化

「困難の思想」と決略論において

内がに「えられることをもと「症共同」の願いの前者

△延海ン政策がそれに

以策の被認的宣命と、批准阻止。 というところに、日帝のへ返還?

高の不可能性」 が狂るとす

帝の政治的軍事的経済的後退ば、

一斉(細正子祭五千位・国団大千位

る国内経済の影機的状況にたたさ (電算機自由化・鉄網自主規制の

国家的な財政投助「用手の、

飛躍した腰雨を

26 にあって、 工商の関係の関連が関係である。 とはを制って関学とした場合を加って関学とした場合を加って関学とした場合を加って関学とした場合を加って関学とした場合を加って、 本の機様)は、 平和大通い ロケンド、 本の機様)は、 平和大通い ロケンド、 本の機様)は、 平和大通い ロケンド、 本の機様)は、 平和大通い ロケンド・

埋めつくした数千の親担労働者、 学生、市民の 圧側的共

文字編9一切のプロレタリアート も怯むことなく、権力との激闘を かかわら下わが反帝戦線は毛ほど

を通した佐殿の目論みは、こうし による 佐藤糾弾のたたか!!

側のたたかいの烽

われわれのかかる断乎たる実力



意味を次のように拠えて、その間・ 台属・九号に鑑り売り五日、わっ

対自化し、八・五佐藤楽広集力阻

われわれは今回の佐藤楽広のも

った。

ては職後初めての佐藤の非広と、 大、五日における際代資相とし八・五十六関争は、いうまごも 門での、われわれの最も断乎とし

のである。

の間印を、あらゆる労働労強級人 上の際いを最も共敗に関い抜いた

侵略反革命路線の具体化=物質化

本年六月十七日、沖織返運協定

戦 旗 社

護命戦争賞後の真紅の道穏をはっ設の固定化を打破する内戦ー世界 社会主義・平和共存・民族経済建 の打倒と「労働者国家」群の一国 われている帝国主義語列強の支配 そして、沖縄返還候動をもって 化をめざした策断を斡覆すること れて、源述と動揺を繰り返す国外代通渡期世界の特殊性に提定せら

ー関内階級闘争の優巡の中にあっ | 沖縄の日 米共同 反高命前察派池 |

た崩瘍的な膨緩横樂を、地区叛軍

かかる情勢の中にあって、我々

制は、その内的矛盾を顕在化させ

面的な再轉を糸儀な くされ てい

し、唯一、世界プロ独一世界社会

防衛、共同豆革命の再襲喰化、と「番塹港戦、八・五、六佐礫楽広団・現代帝国主義の統一的世界市場の「左頭印阻止の闘い、三里塚・・二 対し、その沖縄支遷策動の核心が に も核要な政治的領事的度を育した。 ・ という、との現代政命における繋 いまる大胆な武装闘争が護師・ ・ ロレタリアートの暴力ー革命の正 戦後世界体制の全面的再構が具体

の全人民的解放をなしとけ得るプロ主義の欺瞞的暴力的な支配から 尽すものとして、更には、とうし |になる反動的右翼的質伝を粉砕し|| 網ー自衝隊沖縄派兵阻止地区共闘 ルタ体制の動揺が、ニクソン助中 以路頭在化されてきたIMF・ヤー の建設と、反帝斡線の一層の壊化 す、そうした主体的、客体的条件側ー自衝隊沖縄派兵阻止地区共闘 の火花を、まさに嫌順の炎 と化

は、着地に形成されているのであ

推持し、戦後の世界貿易の飛躍的 る共をの第一は、総一的世界市場を 熱に

かかる主体的な幾級機策 切の繋いを、自衛隊の沖縄が長に 制がドルの金交換の停止、という 今秋闘争の任務は、袭って、一 拡大を発現した「MF屋際趙貴体 の崩壊的局面にあって、動揺し、年間続けられてきた幾後世界体制 変略線に対し、恒常的武装闘争の向けて融行せられる日帝の軍事外

り下げ、マルクの切り上げ、等々 DRの採用、ボンド・フランの切

たたかうすべての労働者・学生 「熊鹿」麟院者、友人語君ノ

際題は、七二年沖縄返還=自然隊

るものの犯罪性は、次のよる

別ち、それ

同反域命前裸基地にあることはい

|『アジーの、当面する髪も繋切な||国主義戦争とのものに対する労働||もなく暴訴したのであっより燃行じた、日本帝国主義アルジ」\*\*ソペーソを通じつつ、第二次帝||プロレタリア大衆の前に

これまで、金の二重価格制、S

シナ、中近寮・中南米

C、日香の経済復興と整 して 金の凍船と かも、と

帝国干赛 を典型的に示し

|その圧倒的な政治的服事的経済的||基とした社会機能は、その実現をの反撃に直向することによるで、|と同様に、顕著実践と歴業再報をしたないでも、これ

た。 一巻一等々、巻きるに、その時々に一点の最 民」・「湯を養え」・「湯体 障害 なん、大衆追随主義 まいな しに)、

日帝はIMF統一的世界市場の流 る負担を公正に分担するときがお リンによる感聞・食器・ベトナ 交路級のより機械的かつ 三速な途 ドル・金交換一時停止を始実し 六月沖縄双環定語印を他行した

理事外 一般の逃行、日帯プルジョアと日帝 一金南鉛組合は、米帯の一九

したアジアの軍事三権との

の形成に

UE S

更に、この大幅経済援助と、一

Eを実改し、今秋国会のL

際定期期任会機は、

的、頻事的、経済的注因の 要請されるのであり、

自国経済圏としての獲得は、増々とって、第一の市場である標園の えず、又、日帯ブルジョアジーに の全面的な。浴力、ぬきにはあり 大幅な削減に伴って、朴以権の反
在韓米軍の一門撤兵、三海援助の 変配の総替と処命は とのことを溢っ 装飾等の決定的意識を全く 曾有の一大熊史的危機)→日帝の ない中核派は、権力四手を内包ず 言ず、現下の国際情勢の他機能深 る武装跳争の遂行という無統的武

関帯の大阪路」として叫んでいる 戦の自然発生性への三階を「今秋 ・小雅朗学の味

的ヤユをもってする「日帝批判」 売りでしかなく、まざに野次「佐座仏伽の行きずまり」の

旧けての中事外交路線をCれま 日帝は、自からの侵略反革命

ではなく、鰡回とした、彼等を真ではなく、鰡回とした。不安なうわざ話」なの の下への総合を一、促進させて次賜をも不耐に財体し、稽図主 くのであり、一等のこうした行 的娯事的武装の実現こそか

て、「労働者国家」群内に影撃方台の前面に 登場せんと し、加え とりわけ今秋、問恩来のご

闘爭

ス

ケジ

ユ

1

ル

にも経済的にも飛躍せんとする中ニクソソ助中を受け入れ、政治的 き進んでいるのであり、これが、 **粒活點投第一卷主腦、模模的「微** に選乱の中で、 実権派が秩序回復 中国は、 文化大革命の生みだし 八月九日、インドとの平和友好高 のこうした動向を「社会主義共同 「労働者國家」群の歴主として

千日

第九回

一小四公判闘争

裁 地

第六回全国叛軍連絡会議 自衛隊防災訓練粉砕闘

現 地

六時 代々木公園B

争 地区

て衝たな機感となって、

九月一日 九月九日

八月三十、三一日 各地区九:一前段闘

争

更に、国際議資秩序の選乱は、

その対立を増大したさせているの 立の際化は、一国社会主義建設の「第三世界」をも合んだ再編・対 #ACに「労働※国家」 許内の、 列班「労働者国家 でして飯後世界体制が、敷後家

一曲された極命路線の必然的結果

てきた二つの柱、IMF体制・ヤ 然的団結を阻害し、民族国家

を全面的に函数させ、帝国主義諸一

軍事外交路料の强権的遂行 (風器工業へ札用で (8/0) | 哲球への移管、という匿めて **沖縄・福に向けての自心医療長と** 

地下鉄建設・粉和街芯に全面的に 唯一の生命線となっている しは必至であり、今秋国会の政治 が切りは、現在の佐藤政府の

武装四季を、大衆的決組と分断さ 対して権力は、新警戒体制 漏 **会** 

芝二には、「今秋批准面上回奏 五四三寸)なる大梁の自然発生性 五四三寸)なる大梁の自然発生性 の主郷和養労による「突戦」の剣

の彼従−∞完選の自民党の敗北・

社・公・民の「高足」反対

と、❸「店渓体制の大助猫」-参 「おかりが、にもかかわらず「日 での対応能力をこえ」ているこ

災路線の腰即に一大打難を与

止・沖縄参選」 脚争へと改作した 会 達」の内実の、消化を欠うめする を 達」の内実の、消化を欠うめする

選」たる 所以が存在したの

で重大数の自

ひとに、沖縄の「巻達」の

「真の返還」=本土への「完全 の分階支配を脳歌するものとし 上部され、より加圧され 沖縄県民のこの分離変配 の念をもって)受けとめ

復帰を実現することを第一篇と ていたのである。

定を、サ桑約で固定化された沖 中核派はこれに対して、 返還 実現をやり抜こう 売行して、沖縄への自

それ故に、日情は、他のどの離政

湿」贈弁を、「自:欧沖縄源兵昭 後って、これまでの 「 沖縄報

念その「公説的要因」と

ル月一日は関東大震災**、朝鮮**人中国人虐殺四十

「類、守田質及死、浜口竜大、早瀬十巻」による九、会主義者と居命的労働者が建設されたのである。「類、守田質及死、浜口竜大、早瀬十巻」による九、会主義者と居命的労働者が建設されたのである。「類は、守田質及

○我々は八月十日、坂本小園で行なわれた「日」とするすべての労働者・学品・市民諸弟ノ 警察、

とする自審院が一体となったどの迫害で孫に六千、冷俊副親先で助災訓練の反路命的本義とをは、か、とは、すべての労働者人民の国際主義的科琴といとする自審院が一体となったどの迫害で孫に六千、徐俊副親先で助災訓練 (表現)の国際主義的共和人 おりょうしゅうしょうしゅう のが繁に対決し、そのようほい歌談を打ち砕くし

わけ、無米せる八派共間に

なくなった区へルをもう一まわり 巻を根底的に沿水され担極がガタ き、町ずら歩けない始末である。

では、「「中国の経済が大阪、「「中国の経済が大阪、「中国の経済、「中国の経済

大学、運動に排験し、

のめら込むことに、なんとか自己

デッチ上げ「国際区職」集合

第五回日船関係金陵は、十一十

本学では日本でのデーニー は一般を含ったます。

「世界であるというに、今後と、日本のでものできます。」

「日本のでは、日本の

**沖縄をアシア人民を和圧する反革命のトリデへと 党・総託民間は一切の襲いを数素しているほかりの日米両常国主義による牲譲の七二年返還、即ち わねばならない。然るに変成左翼−1社会党・共産の代金副教長で助送訓練の反互命的太賞とどは、か とは、ナベアの労働者人民の国際主義的官勢とい** 

八・一一自術族神綱帰郷広報除彩

即ち第一に、前日の弐行宗真会 「沖繩を返せ=沖繩を選」と言ったのである。

「お前らなんか機能で一発だ」な|暴露しておかねばならない。

|断固とした党派関手に恐れ心のの

8 , 10

侵略反革命の野氅打ち砕け!

日韓。定期閣僚会議粉砕闘争

うまでもなく実会にすら産場

他方、昨年、我が赤ヘル屋香鮓 できず、また、それ以降も弱々の

帝国主流領域に組み入れ、 の自密隊員からなる「広報隊」を一派

の人民を火の海にのみこみ世界史上周滑
一句を置った大地震は一瞬のうちに数百万
なわち一九二三年九月一日、突加関東一
なわち一九二三年九月一日、突加関東一

東大震災四八周年

いか。

政々はすべての労働者・学生・市民語

政向から粉砕する難いに決退せよく 7的本質を徹底的にあばき出し、これを

水路を自からあばき出していたの

にむけられること、及び三・一刺鮮雄立 にむけられること、及び三・一刺鮮雄立 にむけられること、及び三・一刺鮮雄立

「爆売した明鮓人民の革命的

事を恐れ、この支配の危機をのり含るため

民をおおった不安と恐怖感を巧みに利

「朝鮮人暴動」なるデマを全国に流し、朝一争の尖長として動異された歴史から生きた数訓を

となり、英合運動を敷売においやり、帝暦主義般、期を一にして俄謀されている事に載して注目せねの場合人民の難いの敗北によって自ら虎殺の下斗人・れ、沖獺への自術院接及と治安訓練・別返訓練が

8口类とし、社会主選者、革命的労働者の達 を自養団に種種し、自衝隊・警察の三位一体で内 ❸自衡隊治安訓練・防災訓練を粉砕し、まさにア

いは革命的左撃闘争と連帯し、こうした支配階級

を発動し、戒厳令司令部を設け、疑隊・

は社会主要者だ」なるデマをもって戒帐合・シープンに備えた防災訓練」と称して、地域人民・訓練が提開されようとしているのである。との明辞人中国人の忠教と同時に「朝鮮人 ◆四十八年目の今日、支郎陪教は「大地震、台凰 る帝国主義的国家共和の一巻として治安訓練防災

まかに七〇年代の国際的際級闘争の高揚に対す

東京地区反應青年委員会世話人 九七一年八月十一日

ル反情戦線の方向を明示した

製造地化とされつつある沖縄へ四 既く重要な集会であった八・11

「民憲主義二統」 によって嫉難さ | 中背雲 (川越茶) によって明确さ

※ 会が無井田中療師、四トロの

中核系 て統一集会は贈かれなかったが小勝初か 華美詞中核派の集会破壊によっ

日比会の関連を新聞として

第二回日本反答戦級大会を、二 全国の「熊田」読者のみなさ 札幌安局金国の 高命的 門志諸

上編は、すでに「戦魔」二七二号

沖縄、坂道関争への突破口を切り

八・一一関学の意識は、日米美

| 都道府県の長、魔会を無視| がしかし、わが反帝 幾線 を先頭

一口独政府都立の戦略的内容であ

・腹様の実行法にお

札幌

た名目の「民族主選二派」は劉会

第三に、幕共同中核派は法政大

ピン、石を準備して来た

達阻止闘争が断乎として闘い披か

### 四八衛年、朝舒人中国人大熊殺一 抜くべき組織として(関東大震災 72年沖繩派兵阻止 一自衛隊防災訓練粉砕 胎動せより 東部 26日 実行委

核派の挑発的妄動を粉砕!のきて、思想を経過できる。 民族主義二派の悪あがきはねのけ、 PR隊輝派遣ミ対決

階級関争のその質と規模において 哲学生総決選集会巡行委員会) が

とうした彼らの危機は、六・一

東京 中

る意志などなかったの。で<br />
あ<br />
| 中核感によって最初から計画され 中核派によって最初から計画され より一層相乗されているので八・一一集 会の破 壊が、格共同 中核液の孤立を終められたご 力的敵対行動に訴えたのであっ われわれば、この三点の中に、 | 全国反験が解体・止場され英共同

鹏

的危機にまで治行していることで

孤として反務機線を主流と

己批判」に対してもである。

五十一七の過程での蜂起・プロ独

権力の介入を防ぐために、また破壊を分裂させ

対論にならない至少な口路をかけてきたのであ か後に長く<br />
配置したのである。

そして沖資委(山城代逐)内一部中核源緊涵 琴と集会改機次正当化せんとしているのだ。又

中核観系反網の代表は、「機動隊との竹伊才哉

分を回ってからであり集会成功の意志があったに中核派部隊が結集したのは、なんと八時十五

は明白である。

確認されていたのである。それなの 代表著の代表者会護」で六時からた

(2) 中核派は百数十本の竹ザオと多章のコー

路接し大赤へル茶幾銀行並添と平行に竹ザオ除 るるが、中核液本除は凹トロ系反鎖をほさんで (3) 清水谷公陽に入ってからの彼らの行動で

えない場合を何回も始返した」と

での適盟の破綻が附かとなるのみ

「<解放派>は沖資委に対し<沖縄が返った

恋、立川基地撤丢反避行動委、神奈川・沖繩一動委、東幕地区神續反源行動委、 申騰反復行動

発言を強く主張しなかった] など 更に華共嗣中柊派の 「沖青委の

中核派に階級的に無難認な鉄程を

- 集会の破壊が計画されたので

に沖縄地区共間の創出に成功し いる。沖縄においては共運局沖

概要員会が活躍しているのだ。

全中心とした金銭の表ができるととを指摘。中方的によって次次で大力させって、わかまが同じがにないとい途間、最近は難は、とは実施を必要がある。 「あるぎのの表ができるととを指摘。中方的によって次次で大力させって、わかまが同じがにないとい途間、最近は難は、とは時間と近後間をある。 「いるのであり、乗り切りを行うと、されるでありで、すの主味を呼が、『で無難として間に対く疾患できる。 2日米共同反革命前線
3.地位

て願いぬくべく、この九州の地に、まな全国的な統一行動として柴狼し、一般を全国的な統一行動として柴狼し、一般を支属といる。

自衝域中民族沖縄派遣の候跡は

でも、漢々自身を正規組へと高め一全国の政者のみなさん。 要後まで置いぬくことを装って、 んでも、実力をもって以止断手を 沖離への自衛隊競兵を、なにがな 豚剤設以来初の海外派氏としての 我を添へル豆帝機様は、七二年 七二年沖縄返還時点における自衛

が果敗に捌いぬかれたことを、全おいて、ハ・一〇~一一連続闘争

に立って、

駅前武装宣伝を打ち抜く! | 東京南京城「東京」 はってきた、大田東京は | 1870年 |

の名目で、韓国や南ベトナムへの

「対外の一乗としてあるといか、ま、「技外協関」とは今で教を実にす。国」を指示する状では、インチローが地でもこの作れたである。 こう自決問題が命の対象徴化の不一動は、これまでの中は非外数的な、二年が選に行う考えた「国財の論」宣信的を創作したのだが「製造 である。日本の権権状态を含むし、復復す、例とそれに向けた日本院を持ちて、の教徒に指すさん。即のかけてもし、 の教徒に対する人があった。日本の教徒に対する状では、 これません。 往来を頻繁に行ってきたのである。概出身者の陰韻を集めて、単に沖 以上のような事実を確認した上、概念兵を沖縄人民に一めさせるだ

派兵策動の本質を暴露す!

カれわれば、かかるは第をはね るのけ、粉砕するものと1~4、

という同に、反情戦線と示へ

博多

復動は、今始ったばかりでもなく

八月十日、福岡と山口市内であ

の気間的争を勝利的に置い扱き

に従うことさえできぬのは当然

を全部加密に訴え、デニ

九・一切災調課粉砕

棚出身等の除員を集めて、単に沖 デモを吹行し、公安一政治警察と として今回のPR陳澄道は、神 師遠軽項地のケート前で、無属け 殿る間るの内性般を貴様したので 名の部隊で北無本陸上自衛隊第四

に占述の際い既以 遊

そして切り 弱くこと そして ニヒリズムを担心しなければな

及び情況衝等を放逐したのはあ また白然生極なのである。 があの森味噌<br />
終合架団<br />
無数振<br />
変<br />
に<br />
あった<br />
変<br />
に<br />
あった<br />
で<br />
あった<br />
の<br />
表<br />
に<br />
あった<br />
の<br />
の 彼等があったのも、

あったのであり、ま

我が第三次プントはその

の偉大な指導者が胎なくて

い述命の平手打ちを受けようと 不ってある。 何故か、 だ

程に於ける陳外省=確マ 払蜂起ープロ独を流任めもつ その裏豆しに過ぎぬ小了 建設主張の結果としての実践語 ニン主義をもって俗枚な を組織する党」
建設への専門 し、唯一「無事を孕み共 選の様々の形態を非妥協的し 革命の主体的条件の創出強化 の圧倒的 展開によって 実証

ゲ「主義」巡戯論者中核派の値 国青年=岩奈受け止め自
決会主義の必然的所能で

革共同中核派及びそれと行動を共にした反軍行動姿に対

とを述べているのであり、実際に彼らのデモは ぬために、内ゲバは自粛しよう。竹学才は行途 孫雄で一発だ。などと相互批判―止揚の可

院表立国止金四東総決巡邦金」を被譲し、関争に

|登壇行動会に対して | 八・| | | 自市陸沿郷広報

する自己批判要求

第三回医行态融合、八月二十月

三曹をはじめ、諸坂留行勘委(中総議) されねばならない。当日の集会は小西 での、一一郎学に現われた事が明らかに

8:11闘争への敵対分子に対する

|九七|年八月二十日

自己批判要求と声明

当日の集会、勝事を収壊する

巻って彼らの行守才建緯に脳神に集会改襲の **要**豪。潔子部分への係行。これが事実である。 中報源本隊の「ワッー」という一声を接にした

参加員の対策が多いのでは、日本のでは、「本のでは、「本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、日本のでは、「中本のでは、「中本のでは、「中本のでは、「中本のでは、「中本のでは、「中本のでは、「中本

われわれとケバをしないのか」「お前らなんか

外偿を一切総括しないで、代押省づらをしてあ 原民」の名の下に、中核派が自己の破壊と不充 遊を陰鬱し房直っているのであるこれは「沖縄

し、分裂を持ち込むものである。 数パ網件を被 がある。 (4) とれらのデマと行動は全関虫機領に対対

い点を全関東級鍵の名において

ア人民に自己批判するこ

定期講読

東大数素学派反解行動 **東外大般銀行遊去、** 

20回分1200円 (**下**含む)

東京都千代田区神田三崎町 2-7-9 滝沢ビル内戦旗社TEL03-(264)2.62 振替東京61102

数が同盟と日本反帝総線は特常的武装闘争の旗の下 完全に日和った関地区・野合石派の顕散の対極に、

裁一を固めた我々と受比するには即今有罪の基状は、活動への介入など、「階級の内での活物」も必要に国大会を七百余着集の下に成功させ更なる意志。化につながらないのであり、そこから反聴とか組合表示し、断固として問いぬいた。そして自太反待教験・ソプを指じるととだけでは効性に労働者局税の組書を設する。

1.10に及ばんとする超斯者、百名近い逮捕をハ る時もあるが、それが固常化され階級の外でストリ

は党が正規策独自の開発機関を行なうことを要求す いうレーニンの命題を放棄する消であった政治関係

去員にゴリ押ししたのである。

つもない思いつきについて。関地区は「マルクスが

第四が一コンミューン四勝則は四り」というとて

<育廃の労働者がの賃金>やリコール制という限定

「関西プソト十年の諸文書は共西主義許は一つも

った「インテリ」すら「アント同腹員」それも復領

を独特の意味付与によって固常化した事に起源し、 家を党派銀団として再構成した」という程度の門理

員の資格>での行対である。田原等が個人的な問題

レーニン組練論への奇対は即らかである。ます人や のである。

また同時で、かの赤葉歌で、彩水の「声の寒寒の」。 本格的な佐囲」という「吐梅としての嫩緑」に表す。 本格的な佐囲」という「吐梅としての嫩緑」に表す。 なん様のと、「豆幼のの緑珠」の名が一と は、「食信し、「豆幼のの緑珠」の名が

- 機として当初から寒疫されるものとした。 この区別 - 機関ー組織の全分野での一致をもとに革命家の組

の区別のではなく、全理除体系をこそ得互批判・相互正拠を家の組る。日常の組織討じを暗争動荷談院と私居によける家の組織と、職権、理論の他に人理論の系所有ンが解禁と言われてく、職権、理論の他に人理論の系所有ンが解禁と言われてく

共に、党のシンパサイザーでしかない人々をとも、と連関を欠減させた関地区は階級形成から召還する

と、として定式化し、覚組機嫌疑は、かかる階級に

「権利力へと貢献するこ 思想」だとかいう形で「、一度出した位ではか対し、切は影想であり、一つの機械である」と述べたこと、ただだに異れるなられている問題をとなってロジューを観察が成を、プロジューとは、

△管員の資格>はない害である。ここに関地区の無 を挙げている。そしてお得意の「党が強ければソビ

の一切の附帯から石湿し、就中、春期間学の最大の (職への再編に大きく者手している。 謝徳の形成を地区共興の領出として開始し六〇年代 の燃えカスでしかない事を思い切らされた。更に六 に、「八派=ソビエト接種体!」 多足倍差一般暴か 一倍三次プソトの特徴として、今右級が落る「NAA 二カ月還れの関イド的を扱うに関連な事後、の襲撃、当じ、投えは収至不按の中央事権のを確認してき、けた傾倒的半判を行なっていきたい。 で下の美いものにされたこせ 「RG」を傾っての、 四・二八正面敞に大阪造し、三国塚・沖縄・牧軍 てきる下部新断家の「結が滲う」「日和県主義はく」いる。 ※派を嘲笑しつつ、我々は「蜂郎ープロ独」 在」 継承を唯一の理由に「正統」を自認してきた。

っちとちゃうか】 式の声掃に一音もなく、 番軽を 一 又、十年余の 実践での連勝アパシを 「學習の不 にとどめを刺し、無知の故に胸地反ダラ酔に引養し 月間田剛争における第三、アントの鴨いは野合石琴 動」を訴った時合右派も、今や完全に分赦し、窓的 除は更に悪のりし、全国社所「火花」と脳列の出版 まず神奈川「左派」派は首巻圏での党派問為に改

い来終である。 ・ 歯臓器に階級暴力・吸を見い出てうと弱めてきた機の変文部行を唯一の主導にしていた部分に入さわむ 謎と同じ経済外的機能の下にある事を説明すべく労 い末路である。 √ 給本は二七「鮑那」ともども休業に入った。無 品経済社会の特殊性としての「労働力の商品化」 郎は二月執筆のニセ『共産主義』 マを連稿として 完全に消滅してしまった。明凡太 紀によって強制され たものである」 事を論 隣して のひんしゆくを買っている。「労働は暴力的階級支 「資本主選批判」をもったと得々とし、資本家的商

(水)は単に減化が 進行している。「バルチザン 最適の質が問題である」と 居覧っていた「さらをですの質が問題である」と 居覧っていた「さらをでするが、」 祖帰りの中で、複雑に理論づいた「五十の手者い」 主義に陥っているのである。 原はプロ独の可能的根拠も不可欠性も無視し無政権

デーー、大川橋田藤寺でゴケるはデーー」と観 程に規則しきった野会会院が「イナム」はかり出し そ、佐州四社の内側から我々を呪い続けてきたのであっても、それがで同じ編書られる事のない「同人 そ、佐藤田藤寺道とよりは人々・汗水(前後観)を挙してある話りを率消む、エギインシリのマスタ しても、我々に代りプソトを建設してゆく内容も気 そして家芸 不致の組織 活送酵争観だが、何えてんな「演求の利」がありえたと べにしかなることはできない。 ■ももたぬサークル場団に何ができようか。さらぎ 無>は関地区には必然である。田原はかりでない。

天下の笑いものにされたニセ『RG』を使っての、

「〇〇批判」や「宇野批判」を書きなぐって活動家 足」としてしか締括していない機関均らの交配ダラ 化はその籍でであり、その次元で中杉派と、合して 手に職場に帰ってしまい、拡地関査活剤や三田塚安 「大衆遺的主義」という 恫喝にもかかわらず、勝 の後、分解してしまった 元労物労適は、 ダラ酔の は二重に行らの本雪を帰してしまった。一つはそれ までの前田一派との組織的関係のあいまいさが活所 大独立腰の真形、蝦鹿座件のいずれにも関介をもた する意志も特定なかった関地区グラ幹が脱落したの っと提出した、あの機関的な「中党マッセン」 中央集権分譲胺への敷切も前じ凹煙である。十年

そして彩彩 不纹の組織 哲能を … としない人。 ストがイコール権力関争」というものである。関係 - エセインテリのマスタ 集団と化した)二つは選挙への乗方主義的意味付みわれる事のない「個人 - 在はこの単純拠返しとしてのへがニニーなきハダカ

を迫られている問題は中間している筈である。中央 こんな関地区游だから「前衛党の不匠の自己批判

然と、旧共産員の安保関等にしめた革命的位置の全

区「我の子」官僚は物事のすべてを自分の領域を決 である。「東京は中央権力同争関四は中間マッセン 原氏であるところの組織日和原主義。(もっとも選 といしもっっているか

のは銘。しておく必要がある。マル他被のこめ、明(は地かない。下部に「職場を務めて見母になれ」と、伝統に「関題に平をふれられたくない」一事だった。出権のための組織問題、総括等人。だが機地区官僚 「昭級的労働退勤論」於り。田原式「熊情労働論」 決する能力も気力も持ちあわせていない。だからこ

作ろう」とした結果、エスエル集団と化し、

なりの運動を展開し始めている。関地区の「党形成

及師僧の義所を、人践治過忌等>の優れた問題意識 に対するプロレタリア国際主蓋からする批判が欠落 い」の構像とポルシェビキ党の建設においており、 場合、継術の視点を「大戦街の財産化 = 英命的巻 のは中共の「国家主義」ともいうべき民族的エゴで している。「万年危機、」=恣意的主観的戦 それは生了第一に<政治過程論>の革命的産業と一動が明らかに特別権と対決しているのに拘らず、そ

## 戦

為三が統一戦将の否定について。 関地区は統一般

よ)づくりなのである。

「イズム」「5号輪女は、「マリケーラには「快がな」的音響をもった人人が包候側引の下で下へがを扱っ、「共神主義14号 日向・論文が判」と 稼じたニセー ササークル的に機能しているのである。やっと障碍

のメンシェビ

キ的組織論

は昔から出て、まま、自然・こうでいる。 「一般一般神はは地方ので、中で実際は行っ、機能で、リアーとに関係的情報をもながレンス・一般時候にいっているのである。 「「一般一般神なから、神での物」」に関係する こしち るのか、現代化によっているのである。 は大した論断である。 関税基礎がストレートに党の「る。「コソミユソ、写」「ソビエト設解体」だって、いずれにせよ、 脳基政でを社会党と作るというの「ら社会主義へと影響させる志向すらもたないのであ

の論 政府のようなものらしい。実際、権力奪取後の権力 将見された\ 政治形態である」とする内容はどうな

ロレタリア気であり、自らは小ブル・ルンプロ役と 密吸から外征化した薬の参デッチあげをうるです和・イデオロギーを感でするという立場からは純社のプ ・自分達のプロレタリートへの影響のならが順郷には大した過ぎである。 『コンミユン』 ぎ」フソヒエト張解体』だって、

主網と廊腹に 南地区は三名しか 結邦できなかった なかった終らも関西の母元を崇翔派に、ぶられ、や一士」に規律を要求するような、あるいは練別な理論 一貫して人無の子>化し、中央網線常融部に関与
又然り。今でも自己糾弾的に終活し解決していく。 一なる。出機比例での日和見主要は依然健在なのである。

## ソビエト否定の統 線

ム批判として述べられる。 う担摘。

を通りた彼らの中国共産党に対する評価は次のよう

●武非の親念的反ズタ主義の乗物である「中国

的解体と同様の戦術を、対米帝下の民族国家に類指摘を、中国抗日戦等下の民族プルジョアジーの政治 受動的力量 の過少評価を終明する。 その課りの根後 「独立」した旧植歴知箇の民族アルジョアジーの ※ 率和共存を被抑圧階を抑圧階級との関係にまでお ▼中傷」からの中共吳夢。 ❷「民族プルジョア 「の二種物」を承配りた上で、第二次帝国主義戦争 「六〇年代後半の旧権民地国のボナバルチ」ム政権 」や「小ブル的反核」のるいは「中共もブルシチョ しひろげてはならないと主張している事実へのデ

子盾を起回し、漢まった養清を祀した」原にしかな熟と、段階級との矛盾という作賞の恩なる二種類の

ら、「学ぶ」ことを、その内容を明らかにせずに顕

以上見できたような無体系=無総括=無権派でお に無節操な関地区一 化し、とりわけ図面の地では独立プントがそれ、かつてその影響下にあった幾つかの河動体が 1 - ニン研 C

ピム」が楽器的な戦害をもた子自然発生的な大楽画の指動家の思想的異思、クラス・自治会活動と、ブ 第三は、レーニン(及びマルクス)革命論の基件 それによる召選主義的傾向を克勝することが徐務で おいて、 「第二過程の意識」商からの客観主義=ブラケマチ 主帳の第二は「左鸞反対派」を説明するボルシェ 上の阳极酸線の後刑を許さず、新しい階級関係の昂 L研ーO戦線は第五に学生共産主義者の任務に含

の情報が出れている。 「機関は、電視性を指し、大変になった。 のでは、電視性が関する。 のでは、電視性が関する。 のでは、電視性が関する。 のでは、電視性が関する。 のでは、電視性が関する。 のでは、電視性が関する。 のでは、電視性がしている。 のでは、 の り目覚し」て陥うという役らの当頭の闘いである。 前級基地化阻止しであるが、とこではかれない。 米反革命問題の再編―日格による沖縄のアジア侵略 近点をもたぬ間四系の儒敵霧消が目をおおる

沖縄・仮織・入管のうちの、舞器跟巡叛護剛等と司・援闘学〉の中で総括せざるをえなかった。

う。パキスタン改作の反脈命に対する援助=東パキーでを終めている音」と出及を体めてしま

することは、全球形である。マンストで、全球でするとロット・運転と多数的なの一貫とどの比較されている。「他の大きなない、それ「我には親友はなる」としている。「我们は我们のは、我们のない。」というないという 「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们の 「我们のない」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」というない。「我们のない」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」」というない。「我们のない」」 を移した関帯を競いる党の指摘者に、とこから流れ、としてコンミュン哲学の立場から「改称」を主義す、において生産労働に参事しつつ自動音声を順節の下ない」(?))という知由以行で、下門に対して死。かつけて官吏が労働省国家に必要なことを述べた」、後する部分であり、労兢と往主として同性・中國官 ともあれ親短区はこうした時いの将外にあること ることができる。(一)布合家の縁組縛。(一)でいてある。 影響下にある労働者の諸粗機(五)労働者階級の未 ・職部とは機関・地区ー部間にあって租赁活動に事。
一中開地帯の階級関争の支援、補助的役割 粉紙とは主として房住−牛頭壺/ まで晒さしめる]。ところがL研は、中共は日本紙 命戦略を提記しえない革命論であること さ、革命戦争の永続性を誘導する世界敗略は、 的には、您一中間地帯、及び米帯内部の革命闘争を ムを控削しえないのかという更なる切開、ないし、

では、今の日本では近の日本のは、一般では、一般では、「日本の経費」という。 「日本の経費」と、自然など、全国機能には、では、日本のようでは、「日本の経費」という。 「日本の経費」と、自然など、全国機能には、では、日本のようでは、「日本の経費」に対して、一二 「日本の経費」と、自然など、では、日本の表情にあっている。 「日本の経費」と、自然など、の目標の経費」とは、「日本のようでは、「日本の経費」に対して、「日本の経費」と、日本の経費をは、「日 大は生まれず、朝の場合にの名。まれる」という。李を担うという田田浜坂県太といた自開新ではサー、革命の遺伝は、大学は生まれず、朝の場合にの名。まれて、日本のといる。そして光帯線の「党が強ければフビー また、PB-RG-和郷州半華的で高層で政治費」いる成である。 お価は更に、●旧アジア三級的な「中国ーベトナム のを評価するが、プロ独=社会主義、社会帝国主流 革命の選得は、連続革命の選得である」とし 務員給与とり働者給与水準格差の紹小に力をいれて 日中国における分割関係のソ<br />
消に対する特徴は<br />
な

549 戦緩の主張を以上げ検討してみよう。 戦 線 の問題

合右派が、堕落するにつ<br />
の組織的出稿にあたって<br />
以下のような主張を行って

京大社学局の廃れをくむレーニン語ーロ戦線はそ ならない。」「六九年春から秋にかけて日本の陪祭 競争は、無事論に限定して溯じると、徹底した 闘争以外解決しえない地平池劉瓘した。この事を否 勢と把えたのは主観的である。だが六○年代に形成

限界の維邦に終え、継承の立場をとっている。その「の民族主義、日帝の影響への犯奏から敵対している」いえ、関西の地に討論可能な消殆体が形成されたこ 「正しい传導分析」と「正しい戦帝」を復奏さ、至命論へと帰宮化されていくことを、中国研究の域 - 草マルがいうような「その田舎ポケ故に、六〇年安 にくりこんでいず、我人の<世界一国同時低命機略 ムの三終的克服を飛路論。関地区や、銀行检察の下検分しか頭にない主揮派を「は当った」「10・8羽間も当った」「妨※庁も当っ の問題意識の境底しの要素を色とく含んでい にも武装関係を根拠するだけの能力はなかった。 義」と反応する敷いようのないボロ郷巾サー と自体は明らかに歓迎すべきであろう。「宇野」と 以上の様に長々とL研=G轍線の主張を引用した は意味付りでしかない。のは河畔へ注明とは存在し

謝>への担近が開まれていること、等として

している。ロスターリ

揚を整備する」「特に学生機様では、全共騰運動後 権力に対して、一切の犠牲を恐れることなく立ち命 ある」「おなみに<全京都学生連合会>はボツタム」向より、→○・八羽田勝等や助台庁団等を切り買く 力の再さが重われるのであり<後げがけの功名>は ルジョア的組織投物としてのクラス、自告会の復居。収がなされることがない事を理論に対象化した点に、では「民生主義防術のための暴力は処か率か」以上、 ってゆくことをぬきに階級が決記するとか、権力参・寮」と幾度し紅共に思頻的植物的に再伏している中、権力に対して、一切の犠牲を決れることなく立ち市、なく関西アントす。6自己を「民主主要擁護の 最完 運動づくりにおいては関学敷物は生命であり、動 ある。それは民間や日共の裏切りといった問題では た市民を革命へ横すべりさせることはできないので

を志向する山研の諸共に対し、我人自場が八明大学 のものである事もまた現実である。政治過程論によの諸点にあると考える。 かり 異なる

馬揚桐における

<茶命的な

晩空>の

変数は次 いのである。そとに党の力様と影響

信頼をかちとり緩慢・組織の受済を図る。❷プロレ飲者人民の前に赦疾して明らかにすること、階級的 タリア階級を支配階級へ高める内容として

|泛批判は日下の標なものであ||あろう。政府依機―政治登機―革命的依機という登場。||動し近端をとらなかった||と喋くのはおかと違いで 機の発酵へ法則>が存在するわけではない。主体の の旗臼鮮明な道所模能を散集した決ま、他って社共 「関争形はにおいて労働者人民が国家の暴力装置祭 災出を行っても 連動に退規的組織的にのみこまれたままで、敗術的 で消見る以外に価値判断のこれをもたないのである

LL研=C映線の語消は人政 過程論>から

そうした実践の結果と

**制に活命政府の田覧と縁起がない限り** 程の非証法的整格規例の再さは、 き内容である。それは「小戦行」大 意二の 人党の機能を随等戦術指導へと一流化 ず という党の本直提官の把楊を、党の現実的 のままの党将総を誘信していること。大梁退励の ことは<国事を組得する中央組権党>の建設では べきの確認へ横すべりさせよう

界一国間時被命の略能と 州的武装闘争として締長

その苦っと攻北を、緊忍不拔の中央集権党建設、 ある。他一次フント=欧匹フントの場子たる食人は

区になってしまったのを肯定はできない当た

権力闘争>という様な 思考を。 我々は その る思考が希出する。関地区の様に人武程をもったら 「党=階級濾液の組織的表現」という報覚主義を、 「過程としての競響を」を批判してきたので 派」という中国はやめ

(何えば、平和と民主主義」の反称) 公然だとい

こして四端化されている。気は大衆と共に成長する

動的な管質のものである以上、密級意識の組織的

事を、我人は強刑せ

沿海が最初になす

当に比較すれば、汝四男等・司院職等や京学連つ

ところで我々になする一科小主義」

クなデマロ伝が広く流布され

**奥西地方**第

にちかう。中央維権性から始めればならない。 武装蜂却を実現する覚は大樂湖 を 十年やろう まれてはこない。政治適利คも開地区もこ ではないか。大栄闘争(軍事団 収柄という第二次プントの中で、中ソ労働者国家る。我々が無体系で無難職ーただ戦闘的体質のみ いうのも理解できない訳ではないが、 △党の協会〉に関わらなかった独立プント語グル 内に相括され獲得されていることは論を待たない。 派闘争を迎えたなら理解が 遊が全国党を志向し、華共同周囲と血で血を死る 依拠しつつ構築してきたどとの意識は、 万が 戦略両的にとりこみ、資本中談批判を宇野経済学 余年の栄売と悲惨ーその成果のすべてはわが同盟 <第三次プソト>建設へ同けて 決着済み

にノすべて武芸蜂組のその日のためにノ を実現する事を発して第三次プソト建設の大道 立プソト路グループに対しては原則的な批判! 組)の初々とした命服を音任をもってたちきり 短面) や党を僣 称する戦闘団左翼 (=関地区・ ともあれわが同盟はフンテリープント帰団(

〇年型の闘争なくして七〇年代型闘争は阻認になら 否とは、戦術の主体ー組織の次元から把えら

された日本に於る藍命的左派は、思想的にも組織的 な概念であることは11話も認め、西勤監察 (?) と るのはメンシェビキであり、逆にへ蜂起>の清 はありえない。との髪から宣への転化をもたらすも 組織機術でなくてはならないと手順しを行なう。● を批判したのだ。社共の影響下の人々が <平 のが戦術である」というくだりの人機術とが曖昧 が「字和と民主主義で向った」ことを批判する程 は闘争の質的盗腰(L研はプロ独への突入と解釈)

政治道程論の限界についてL研=G綵絵の見解は

的推進構造の一環としての<小戦術>と好尊的報

それに未常形の大衆にいくら「熊術提供」か行な

活動を基礎としてはじめて「武装蜂起」という ふし というの **頻声するのなら、こちらから聞こう。旧関内プ** のでしかない れ、交響客化されていったか、あるいはどのよ の発達」の経形に終えて提出しない限り、その経済 いからである。もう一つはレーニン戦術論を初期し でき、反革命とのの約果、世界革命戦争が始ま いうのは都命熊争中か、さもなくばローザ主義の曹 が社会以治闘争として、 企曲されたのか明らかでない点である。 端〉なら、<過渡期世界論の立助の弁証法>に の戦術がシーニンの<戦征>概念と同一である」 が「ス治遺程論」に基づいてその後提起した人 それでもなおかつ、L研の誘素が、「三治道程論 が解釈すれば、 治野学と同当化

១滴。❷後って党の機能を闘争戦術の指導へと一面限的な左傾化によるプロレタリア権力樹立といる選 点にまとめ反接例を行っている。●関争機術の原修

国民党の勝終的時めとパクロのために開催した スタン中共派気殺しの問題と、中国が米中会談を

ん行われてない

シ批判が「味方内部の矛盾の処 ている事態などに対する分析は に侵を作っていくしたに命ぎを一所化した機会主義。おこと暗歌となどの英間であり、神幹解学主義とある。任は「党第7一部級を開展できる会員と述い上い、「衆正七十二ンと組織のカイズトたる「三演書」に「と歌歌を通れ、「日何は終マルと同様、戦の内、子子に与たならがはちの・世界のであろうかをし、して能し無要を指むにいうごと来のでろうか。 関地、引き集ばいに知識したます。

野合派を徹底して解体せよ!

雖論機程六号以来、一貫して人の沿渦得論〉を批判 な形態の中に、つまり共声党の中に必ず反彫する」

政 (治過程論の擁護と批判

1. 1部 - C 戦報は政治通程前に対する批判を次の三 化する密装池・ 母先保護等の経済視点の「精巣等」に対する批判を次の三 化する密装池・ 母先保護等の経済視点の「精巣等」

認識を明らかにすべ きである。大衆の歯が にしか

今また先祖帰りをとげよう というし所の 議宗は

てきたのはととに、「迅動づくり」をもって「分

Patは うであった機に、「政治通程の独自の運動法則一般 武装蜂祀は自らの部隊が600条方装置を粉砕しる 術の有効性」を確認した。●『大紫真動の作行は当一条件を確認しない帰り、照和しえないのである。

服していくのか当初から敷布を出奪し、 識〉なのは初めから明らかであり、それをいかい 巻三の「鞘果解你」主義への反批例は「 我々は何も社共指導下 市民主義に転落した

しないのである。私体的な情勢分析から現場主義的 革命家の総派というものである。「大梁の行動られ、こうすればああ地む」という祖な法則は存在、だけ実担されたが、それは何彼か、と分析する

には縁終的基準が強力ではなかっ、取りにより、民間はその委察を狭、駆られているのが悪状である。魏 る労徒の改奏対策のつき合わせが、衛運動の指薬器を買取しきるほど、革命的定義の接触、日共のかすめ、ってきた民間を派は英木無力感に、忠保也資計間、分配率なりに対す

評の日本労働運動に対する視気力 中心となり、労働運動は経常改善配られているのが現状である。 緩 る労能の改業対策のつき合わせが

「政党支持」 に対する 民間の

後って民間左派の影響力のは

窓返を への組合の協力に転送する。

かか

て、「闘う総評」というにうもの であった。その点 よって物とりを保険してい

のでは、自然の日本の日本のでは、「本人の日本のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、「本人の日本のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、「本人の日本のでは、 のでは、 のでは、

を 新用・浜産苑・社会党への転換を要求す。 全名いりにかはて、パスの乗り避 かくして資本 は労働市 無し何の万扱題 会党への転換を要求する名語と、 しきれずに、自らの育様的郊位部 様の英様になることはまちかい。 のまは紀の中で、名から経営党・社 もは、今や内閣の延芝の売れる酸 デが出るほと規禁している評判政

が総評を「階級競争至上主義」で、強い二〇余の単層が既に「共産党

おるさると縁四・中立後艦・開盟

とのJCの新たな動向は、 の間部門が日本資本主義の幾合骨

「運動体」としての自立化の方向

 $^{\rm C}_{
m I}$ 

しかしながら、六〇年代中期以

り、読みの早い全開発以外は一

全國器以外は「自由化」されてお 日本の労働組合運動の中に、欧米特」しており、国家公務員組合は 薬別組合を支配的形態としている

欧米

第二には全民圏が地方民労略を

# 働戦線再編の現段階 総配大会にみられた

参考物の確定は当1つ行われたと、間間や日光が、光とはくれた転換が1200日(それが3つで目の元となれたと、反気を対域したしたの転送をもった引きる場合を使じた。ないのでは、1980年の日本の経過には、 日本の名は、日本の名 りと「労働級級系」」に関する右派の収勢のみが、それぞれの官僚的思惑を持って行われたに過ぎない。

では、大きな機能を使用では、そのであって、日本が、人に関係と関係しています。 できる (金融)といるのである (金融)といるのでは、 金融)をはいるのでは、 金融のでは、 金融のでは 動搖 り、全く反労働害的なのである。 ーリン主義的本質を鮮明にしてお他方日共の対応も、独らのスタ 合では、「屈標・信条」を理由と っととが公然 労働組合の哈 型 だけである。だがしかし日共の場 申 れば、それは報合主義に転換する 報過のための願いと一体化しなけ 浮から阿駿への移行等 に 対して

解評民間は、戦後激動期におけ

したアジア階級関係に対す

「政党支持」を巡る民同の

出社が表現という場合的な構造。 他の問題を必要を推出して、専一切をののもとは、したいから、およの対さしてもの思想がある。 地震ととのである。日本ビスは、の種類的である。日本観音を、自動をは成り対するというとこう。 世紀できるところが、その意思 他になるのと現代が対すがされて、上生義」であり「政治職等主義」、他に、私にときるとないとはて、ないからないなのである。

が炭薬毎にナシェナル・セ 通りの企画化をめざしていること 田派がこれと同語して民社十社会 いうことではないのである。そうの右绁化に対難していけば良いと 我々の伝務は単に反戦戦化を組合 トの階級的団結の意ぞのものを飛 ではなくて、既に反戦として具体

会 ての問題をも遅れたものとして把 がおりますた。 がありますた。 がありますた。 がありますた。 がありますた。 がありますた。 がありますた。 がありますた。 である。 である。 である。 でありますた。 でありまた。 でありた。 でありまた。 でもな。 でもな。

東西氏にも南端末瀬の瀬門と、後近に、もらにもの時かの東と 本来が並べた1の事金も統領 ろくいらは大事を通り立して 編集 まちもの 直接して からかい は、日本文主義の 主 秋寺 「地子リックの吹鈴 の「戦」和北海法門でよっている戦 すらが妖師の美国場合が許をする 冬く これない プランド・ もとも近古年代の神法関の ある。 ■新一への推測は今年経りであったりでは、またいのでは、かいかい、しゃくな物が、というには、というは対して、今年 「総定は」に関わないでは、関連は、今年 「総定は」に関わないである。 他には「本語の機」にあったがあい。 それぞれの質 一般回しなうが大きいでけなる。 作べしたの様にでき、かいかい、ないないのでは、それぞれの質してき、しょくといって、それにもある。 としての「自立」した運動を開解 押し出し、労働組合の再帰と改党。 し、我々の任義の仕大さと最終の合うの枠をはすして、 理案判拠合 - を社会民共闘の持続化という形で、 とを卒尚に認めなければならない その場合明含らかに枠のはずし に押し出されてくるということに 別担合 を社公民共関の持続化という形で とを挙順に認めなければならない「寒粗 黙慕から見せかけの野党値の晩期 おいて他大たるものでしかないと の再編が、一応形式的には統一的 労働運動の状態の豪麗は余りも大 だがしかし、このような策動が中で既成指導部が無側化し、 光尾 敗撤 中で既成摺線宮が無側化し、鯵脚ながら気機にひんする労働運動の きいと言わればならない。 開いは、米だその具体的影響力に こそ披命的労働者の任務が設定さ 保険医総辞退にみられる

> る甲麦は国公立病院など大洲院中 事に届けで、とおらでも採用でき

て、社会党の敵後の「平和と民主・緊察の 強ス」=帝国主義的社会再編に対し 実」され

は傷かばかないボス変

北九州などの地方民労認はこの一航を一にして関東、大阪、愛知、

これと 倉 の枠をはずして

〇月に全国連絡協議会の結成を準

梼の原則」が掲いでいることは、 ろうとしており、当然にもすはないにせよ、終評の「社会党支 進と労務管理体制の確立ート 

としており、当然にも社会党 ・JOが「運動体としての

この総評大会の数日前にIMF アー 深まる

らのの 一民同プロックの右から

その一点として強めているわけで に絵評・厄盟・中立労連・新奈別 ていく

Dの解体を 域化」を高々と唱え、大会の脳中 対層しながら労働逃避路線でやっ 田波がとれと同題して民社に

ンターを行し、双方の声葉吹巻を

いるという鬱質的損虧。て、反共反革命を施印しに、米倍クが日本階級闘争の主・一などもシンポル操作的に酌員し

ある。 うとしており、同時にこの浸料とが存在 バルティズム政権を包摂している

ム政権を包摂している

労働

跳線統

\_\_\_

動

主義」に立脚した小市民的政治闘 りの昇給が労働地化と物領上昇でて、社会党の敗後の「平和と民主 緊察の 強化、ないしは 僅かばか

に対する規定力を持ち得たことに って必然的なものとなったのであ

谷一次 プルジョアジーの授譲により答々

と勢力を伸ばず同盟!JCの帝国

主義的労働運動の制施的拾頭、

ア大衆 相殺されて

て処命し、危機の引き経ばしを言一法。その場合に企業の表謝の計算、な利害対立が接難に絡み合ってお エネルギーが無定形なままに充満的労働者が放置され、その汽命的

革 命的労働者の任務は

止闘争の展朋をも大きく切り拓く

かかる権力闘争のファクターを 命かかる権力闘争のファクターを 命

ソヴィエト現組織の建設なので

の急速度の展開をもって、衝突に

その軍事外変路線(参言

中核派に彈劾の嵐 22全関東叛軍代表者会議

この人民戦級派の夢想する、 欠素せしめた総術左翼ー実体とし

支配をなすものの不可欠の類であ

減分的左翼の下への相談化を含

た政治暴露を貢養し、地域住民

とりわけ、九月一日関東大震災

的統合をなしとげることは、階級

命の遂行の下に、より徳間な国民、歩とする地域住民の反西命

不拔のレーニン主義党

創成を闘いとるために

そして、かかる日帯の保略反革

そして、この「防災」前棟

何 か

る組織された抵命の正拠重とプー事態地沖縄への派兵は、日 |題をもって、政治権力を奪取し| 頻事力の増強と、アジア展大の銀|

の登選的階級利害
政治的経済的結合の強化と相まっ
の登選的階級利害
政治的経済的結合の強化と相まっ

座のヘゲモニー収約を夢見ている 民間を る利害関係の中を泳ぎながら、再である。 した保耐の後を纏って、輪そうす。つつ、無 した保耐の後を纏って、輪そうす。つつ、無

- 民間左続にとって「資本や反動

つつ、消極的に立ち回っているの 入りつつあるといってもよいのでいう安練などっち切がに押しひがれ 抵抗は、その着後の咳服の準備にいるのである。今や民間を液のいるのである。今や民間を液の

物様に突きつけられていたはデでは六九年秋の闘いの敗北において

日帝は、その侵略反滅命の強

別われているのは、用棚に日帯 せんとしている。

の武装

自衝隊神繼派兵に向けて、その

これを一つの「作業行動」と目 の防災特別出勤を行ってい

て軍事訓練の対象としつつ

前、気分的な「騒乱」を目し目

を固執し、、階級機線を反動的に

六〇年代双大梁的武力縣等

九・一「防災」訓練を粉砕せよ!

旦待然一般級の極命的符解に敵

一塊を必ず粉砕し、蜂起ープ

日和県主義的区域線に対象せより 合材の鉄火の主

層の飛躍をもって、沖縄国会、一路として打ち固め、恒武輝筝の を余すところなく暴露し、地区共武兵、国内反革命治安訓練の実施

14号

絶 讃 発 売 中

(但、書店のみ)

価能沖縄派兵の機助を粉砕し法

記化する 常せ始めの 白へ ル連合制 た「うわざ話」で集ってくる一 その場合に、この晩報が、そう 集し、囲掘の髪を広げる」とと、 帝国主義 的労働減助と の根底的

させたものであり、地区共闘側出 の測定を何がなんでも作り上げて **警察の改職 を明らかに一 米前志 ゆく民間にかわる新たな労働運動** 

(一面よりつづく)

のである。美術、古は近郊です。放性機の一はたり上で、新鮮の神田に向びた後の海峡の一般に対して、少物学が次のでは、「はは近郊で、現代性域では、日本の一般の経験を一部に実際のない。美術・大震な中央が50余回的な姿、50、またはなる最初し、現代の日本のである。

対応は、七二年沖縄自衛陸派長阻|権的落行に対し、その自衛隊沖間

止に向けた革命的叛策闘争の腰腕

対して、民間左派主流の岩井以下

しかしこの太田の陽街の転換に

ト 々そのリアリティを喪失していく さ に 以上、このような「抵抗」は、日 巻 勝拳の無偽無策の延長でしかない デ

進動や空一組合のデッチ上げ、糖 のをも接言とられんとするような日和り続け、右渓の労働終系統一 は、その「戦闘部」の幻想そのも毎日和り続け、右渓の労働終系統一 は、その「戦闘部」の幻想そのも 高共同问訟の如く労働組合運動

なかった総評風同は、当然にも大 田間上の運動すら満足に取り組ま

こうして、現代における革命の

の下に、自衝隊-警路・消防団ーの場として、「防災訓練」の名目

四八周年は、「大震災」を動火に一きに全人民的政治國等機関とし

みたてての国家的治安訓練の格野一般化していく重要な悪であり

であると同時に今秋沖機関争が民一年典するこ

¥- 反戦・全歩連の教神にのみ、 組織のイデオロギー的伝統の深化

ただ、そのよってたつ話

民を国家的に組織せんとしている。て、この調いは何い切られねばた町内会・自繁団を中心に、地域住、地区的に結合していくことにおい

この調いは担い切られねばた

的感媒を、叛災行動委を頼り

在的に地区に散在する諸人の個別

の排外主義的囲い込みは、彼等の一て、そのための「大地震到来中さ

こつれて、増々繁骨にならざるを

され続けているのである。の組織化を九・一曳行差異会とし
ンペーン」がすでに納納に展開
災」訓練粉件に向けた起区的勝い

八月十一日、自二級帰郷広東資本

すでは我々は、この九・一「助

災において、<br />
滅験令が発動され、<br />
この九・一地区<br />
で提起している。

この九・一地区間の強化をもっ

的 獲得する重要な課題である。 の自然的武装闘争の一層の系騰を 五命 突張していくことは、今秋ー来春 四 郷自の欧洲兵間上の闘いに向けて

**師的な集会破壊と、毎種闘争への** る日へル反策行動委員会の、反革深めている中核派とそれに追随す かれそこにおいて、この回興政を

全ての問う労働者、学生諸者ノーに退及がなされた。(詳細次等)

八・一一自然除沖縄掃郷広奉除

從って善命的労働害は、今秋四

念部退人

保技本改

明いか演奏しておられる記憶者(中年一月十八代)原和の高速機関。され数数関策(人士本地にあえた)ては「切みれられていない」。 一般的の事業、学生所書とを表現、このを中央社会、保険の高速機関、され数数関策(人士本地にあえた)ては「切みれられていない」。 「でおけれる事業」や上記書とを表現。このを中央社会、保険の表現を表現しまし 機力の機関の単になり、日夜 いつの場合された後級医療経済は ていた乙妻が廃止されれば、今で他を削予が持行された。 とうしずの機能とは整理は ていた乙妻が廃止されれば、今で他を削予が持たす。

医師会の圧力(右からのつきあげ)

目に見られるように日本医前会は の枠内での利润の三次を行うこと 化を保流させたのであり、医療機次の通常図会で振腕する、の二項 点単位出来清払い制」という健保 のスツップ化)=医療の二支債に 医療機 である。

政府日本医師会一体とな ことになる健保技士改惠を衝平阻 欧の海外派共に備えて現在か かかる事所をますます促促させる て、さらには帝国主義継続引自衛 ている現行医療体制を断乎粉砕し 城の「民生安定」を行うものとし

型 ている日本共産党は今国の事態に でいる日本共産党は今国の事態に

へ独中させ、自らが健保改正案を

であり、日本医師会の保険医験部 描いてみせる改良主義演扱りなの 他にお始しプロレタリア革命の前 他い総会主義路線、場合主義的以

今回の辞遺医の大声分が開業医を行なう場、日本政府が ジア諸地域における風土病の研究

енетельный перетельный принестеней принестеней принестеней принестеней принестеней принестеней принестеней прин 対別)と収存管導整係(中小企業 伸長をなし、「プジアの蒙王」と、候保が担合機保(大企業労働者を おける収益的経済的へゲモニーの 化される事により国民全陸に同一アジア侵略反革命を円滑にの本質が、動労者健保として一本一県化の枠内での独自和書と 労働者を対象」と階一部に定及しして驱場してきている した共同反革命局盟の再帰

❸從来被用者(サラリーマン)

「補階級諸階層の利害をプロレク

りアの利害に包括させる」関いか

ところが、発行、医療戦器に関